

授業科目名	看護技術Ⅱ			担当教員	隈井 寛子、小手川 良江、 高堂 香菜子	
開講年次	2 年前期	セメスター	3		時間数(単位数)	45 (2)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	健康障害を持った対象者に対して、個別状況を考慮した看護技術を習得する。					
到達目標	1. 個別状況を考慮した看護技術の意義と必要性を説明できる。 2. 対象および看護者の安全を守る技術の必要性とその基本を説明できる。 3. 感染予防技術を理解し、基本技術を実施できる。 4. 与薬・活動・休息・食事・排泄・清潔について、原理原則に基づきながら個別状況を考慮した看護技術を実施できる。 5. 実施した看護技術を評価し、その内容を記述できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	看護技術Ⅰで学んだ基本的な看護技術を応用し、健康障害を持った対象者の個性を考慮した看護技術を実施できることが求められる。健康障害を持った対象者を理解し、個別状況を考慮した看護技術を実施する過程においては、「問題解決力」を養成する。同時に看護の専門性を踏まえた思考や技術が必要となり、「看護の専門性を探究する力」を養成する科目でもある。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
				◎	○	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	概論 治療過程を支える看護技術の意義と安全を守る技術について	講義 演習	予習：スタンダードプリコーションと無菌操作について教科書を熟読し、ポイントをまとめる。 テキスト2) p422-453		60 分	隈井
2	感染防止の技術1 スタンダードプリコーション 無菌操作					
3	感染防止の技術2 スタンダードプリコーション無菌操作	講義 演習 (実技)	予習：前回の講義・演習内容を整理し、実施できるようにポイントをまとめる。 復習：無菌操作、滅菌手袋の着脱について練習する。		90 分	隈井
4						
5	技術まとめ 無菌操作フィードバック	演習	復習：無菌操作、滅菌手袋の着脱について練習する。		90 分	隈井
6	技術試験1：無菌操作	演習 (実技)	復習：無菌操作、滅菌手袋の着脱について練習する。		60 分	隈井
7	感染防止の技術のフィードバック 与薬の技術1 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、 経皮的与薬、直腸内与薬	講義	予習：与薬の技術についてテキスト2) p286-301 を熟読し、与薬の基礎知識のポイント、各与薬の技術の概要をまとめる。		90 分	隈井 小手川
8	与薬の技術2 注射（皮下・皮内・筋肉内注射、 静脈内注射）	講義	予習：注射ついてテキスト2) p301-333 を熟読する。注射器の取り扱い、アンプル・バイアルの吸い上げ、点滴静脈内注射の準備・管理についてポイントをまとめる。また、注射に関連した人体の構造と機能（皮膚、筋肉、血管、神経など）についてもまとめる。 復習：次の演習内容の動画を視聴する		90 分	小手川 高堂
9	与薬の技術3 注射器の取り扱い	講義 演習 (実技)	予習：注射器の取り扱い、アンプル・バイアルの吸い上げ、点滴静脈注射の準備・管理についてテキスト・動画を確認し実施できるようにまとめる。テキスト2) p301-333		60 分	高堂
10	アンプル・バイアルの吸い上げ 点滴静脈内注射の準備、管理					

11	活動・休息援助技術 身体可動制限のある対象への車椅子移乗援助、安楽への援助	講義 演習 (実技)	予習：車椅子への移乗、苦痛緩和・安楽確保の技術（体位保持）、褥瘡予防について教科書を熟読し、技術のポイントをとめる。テキスト2）p94-122,277-284	60 分	隈井
12					
13	食事援助技術 身体可動制限のある対象への食事援助	講義 演習 (実技)	予習：栄養状態および食欲・摂食能力アセスメント、食事介助について教科書を熟読し、技術のポイントをとめる。テキスト2）p26-47	60 分	隈井
14					
15	排泄援助技術 身体可動制限のある対象への排泄援助 ポータブルトイレでの排泄援助 おむつ交換・陰部洗浄	講義 演習 (実技)	予習：おむつ交換・陰部洗浄について教科書を熟読し、実施できるように技術のポイントをとめる。テキスト2）p58-73,185-188	60 分	隈井
16					
17	清潔・衣生活援助技術1 身体可動制限のある対象への清潔援助 (寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄)	演習 (実技)	予習・復習：寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄について復習し、実施できるように技術のポイントをとめる。	60 分	小手川
18					
19	清潔・衣生活援助技術2 身体可動制限のある対象への清潔援助 (寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄)	演習	予習・復習：寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄について復習し、実施できるように技術のポイントをとめる。	60 分	小手川
20					
21	技術試験2： 身体可動制限のある対象への寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄 清潔・衣生活援助技術のフィードバック	演習 (実技)	復習：寝衣・シーツ交換、おむつ交換、全身清拭、陰部洗浄について練習する。	60 分	小手川
22					
23	試験に対するフィードバック	講義		60 分	隈井
先行履修科目					
テキスト		1) 茂野香おる 他：専門分野Ⅰ基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2015. 2) 任 和子 他：専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2017.			
参考文献		竹内修二 他：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠 Q & A，照林社，2010. 田中マキ子編：写真でわかる看護技術 日常ケア場面でのポジショニング，照林社，2014.			
評価方法		筆記試験（70%）、技術試験（20%）、授業参加度・提出課題（10%）			
教員等の実務経験		様々な分野における看護の臨床経験を持つ教員が、その経験を活かして看護技術の講義、演習を行っていく。			
メッセージ		本科目では、既習科目の知識を使い、より臨床で活用できるような技術の習得を目指しています。また本科目の講義や演習で学んだ知識と技術、態度は、2年前期の「看護過程の展開実習」で活用していくことが重要となります。			